ハイテックシステム 酒井裕司専務

連載12回目は、水力発電所などの計測・監視システムなど手掛けるハイテックシステム・酒井裕司専務（39）。東京でIT企業などに勤めていたが35歳でUターン。豊かな自然と技術をミックスした第一次産業先進国・北海道を目指す。（次回は10月6日掲載予定）

青山千景がリーダー直撃 21世紀のフロンティア

医者目指してた

――社のホームページにハカル、ウゴカス、トトノエルとありますが。

「計測し制御し管理するシステムを開発する会社ということです。道内の水力発電所で使われている監視システムの多くがウチの製品。北海道最大の京極発電所（虻田郡）でも使われています」

――簡単に言うと？

「釣りで言えば直接竿を売るわけではありません。どんな道具を使い、どんな釣り方をすれば良いのかを考えてあげる。それを数値化したり、製品化して店に提供したり…お膳立てしてあげるのが役割です」

――初めからシステムに興味があったのですか。

「いいえ、医者になりたくて勉強していました。それが古文の整然とした文法体系に引き込まれて、大学では国語学を専攻しました」

――全く違う分野ですね。

「ええ。しかし在学中にインターネットが出回ってきて、今度はそちらに興味が移りました。理系に戻ったわけですが、その違いを意識することはありませんでした。論理的に物事を考えることは変わらないですから」

――就職したのは東京ですね。

「IT企業でアルバイトを始めて仕事が楽しかったので、そのまま就職。3、4社渡り歩きました」

少人数企業憧れ

――楽しかったのに帰郷したのは？

「務めていた会社が大手企業に買収されることになったのがきっかけです。大会社で居場所を見つけるのではなく、少人数の企業で勢いよく仕事がしたいと思いました」

――大手への就職を断った？

「収入もかなり増えそうでしたけどね。いつかは帰ってこようとも思っていましたし（父が社長の）ハイテックシステムを継ぐことを覚悟して11年に入社しました」

――東京と北海道の違いは？

「北海道は情報が少なくスピード感に欠けると感じています。ものづくりに力を入れていると言われますが、技術はあっても何が欲しがられているのか的確につかみ、世界規模で考えるのが苦手ではないでしょうか」

工場で笑顔を見せる酒井裕司専務と青山千景

第一次産業の先進国に導く

率先的開発発進

――本当のものづくりとは。

「言われたものを忠実に形にするのではなく〝そう、これが欲しかったんだ〟と言ってもらえる製品やサービスを開発し、発信することだと考えています」

――北海道の今後の可能性は？

「見直したこともあります。社の技術を生かせる未開拓分野が多く、今はワクワクしています」

――未開拓分野とは。

「例えば第一次産業です。酪農ですと何千頭もの牛を管理するシステムを必要としている。養殖などでも人手をかけずに効率よく管理するための手伝いができると思います。新しいことに挑戦しようとする若手農家もいます。北海道は第一次産業の先進国になれます」

デンマーク見本

――第一次産業の先進国？

「酪農王国デンマークがいいお手本で、視察に行ってきました。牛が自ら列をつくり、搾乳機が自動的に動く。そこに人は介在していません。そのようなシステム化は普通のことでした」

――日本も負けていられないですね。

「目指すは世界。社がそのシステムを提供する心臓部になりたい。ITと豊かな自然…私の東京での経験や知識と、故郷の特性の両方を生かせるわけで、こんなに素晴らしいことはありません」

――Uターンの星になる？

「視野を広げて帰ってくるのは地元のためでもあります。Uターンを考えている人に夢と可能性のある古里だと思ってもらえるよう、第一次産業先進国・北海道実現の役に立ちたいですね」

▽ハイテックシステム　本社・恵庭市戸磯76の22。1991年に現在の酒井智社長が設立。設計から製作、施工まで全て手掛ける計測・監視・制御システムは学校などの公共施設でも利用。最近はロボット技術分野への応用にも取り組んでいる。

座右の銘を色紙に記した酒井専務

♤酒井　裕司（さかい・ゆうじ）1975年（昭50）10月9日、旭川市生まれの39歳。北広島市で育ち、函館ラサールから国学院大へ進む。11年にハイテックシステム入社。13年、専務取締役に就任した。妹は8月に行われたニトリレディスにも出場したゴルファーの酒井千絵（38）。

♡青山　千景（あおやま・ちかげ）1986年（昭61）1月17日、札幌生まれの29歳。北海学園大卒。中学時代からタレントとして活動し00年CMデビュー。07年度ミスさっぽろ。TVh「旅コミ北海道」やFMノースウェーブ「カモシダサナイト」に出演中。